

# エビ刺網で漁獲されたイセエビの体長について-2

石田 陽 司

過年度に引き続き、漁獲対象となっているイセエビのサイズを明らかにする目的で、水揚げ地におけるイセエビの頭胸甲長の測定、および漁獲量の調査を行った。以下にその内容を記す。

## 材料と方法

### 1 体長測定

阿部漁協、日和佐町漁協および牟岐町内の3漁協(牟岐西・牟岐中央・牟岐出羽)のイセエビの集荷を行う牟岐鮮魚出荷組合\*において、イセエビの頭胸甲長の測定を行った。阿部漁協においては1991年10月から2月まで、日和佐町漁協においては1991年11月、牟岐町漁協においては1991年10月から1月まで、いずれも月齢0日を中心とした一連の操業期間毎に1、2回の割合で、漁獲されたイセエビの頭胸甲長を測定した。測定対象個体の抽出は、昨年度と同様層別無作為抽出とした(石田, 1992)。

測定はノギスを用い、1mmの精度で行った。雌雄の判別は第5胸脚基部の交接器の有無によって行った。

表1 イセエビ測定実績(単位:個体)

水揚げ漁協名	測定月/測定個体数	雄	雌	合計
阿 部	91年10月	267	146	413
	91年11月	195	110	305
	91年12月	249	136	385
	92年1月	117	69	186
	92年2月	15	6	21
日和佐町	91年11月	317	142	459
牟 岐 町	91年10月	325	218	543
	91年11月	504	237	741
	91年12月	29	7	36
	92年1月	118	86	204

### 2 漁獲量調査

銘柄別(層別)抽出によって魚体測定を行った場合、漁獲イセエビ全体の頭胸甲長組成を得るためには銘柄別漁獲量のデータが必要である。測定を行った3漁協において銘柄別漁獲量の調査を行った。銘柄別漁獲量調査方法および全体の頭胸甲長組成を得る手順については、石田(1992)に従った。

## 結果と考察

### 1 漁獲されたイセエビの頭胸甲長組成

各漁協における測定実績およびイセエビの頭胸甲長組成をそれぞれ表1および図1~5に示す。

昨年度(石田, 1992)と同様、漁獲イセエビの頭胸甲長範囲は、40mm~80mmの間にその大部分が含まれた。頭胸甲長(以下CL)80mm以上の個体は、そのほとんどが雄であり、その結果頭胸甲長範囲は雄の方が広がった。徳島県漁業調整規則で再放流が義務づけられている体長13cm未満のイセエビの、漁協による買い取り・再放流が行われている牟岐町漁協においては、CL25mmサイズより漁獲されており、本県で用いられているエビ刺網に羅網する最小サイズは約CL25mm前後であろうと思われる。これら小型個体の漁獲は、水温が比較的高いと思われる10~11月に限られた。一方CL40mm以上の個体については、測定期間中を通じて、その組成に大きな変化は認められなかった。

### 2 性 比

上記3漁協における銘柄別性比を表2に示す。全てにおいて雌の方が少なく、昨年度と同

\*なお、1992年1月に3漁協の合併により、牟岐町漁協として発足した。以下本文では牟岐町漁協と記す。

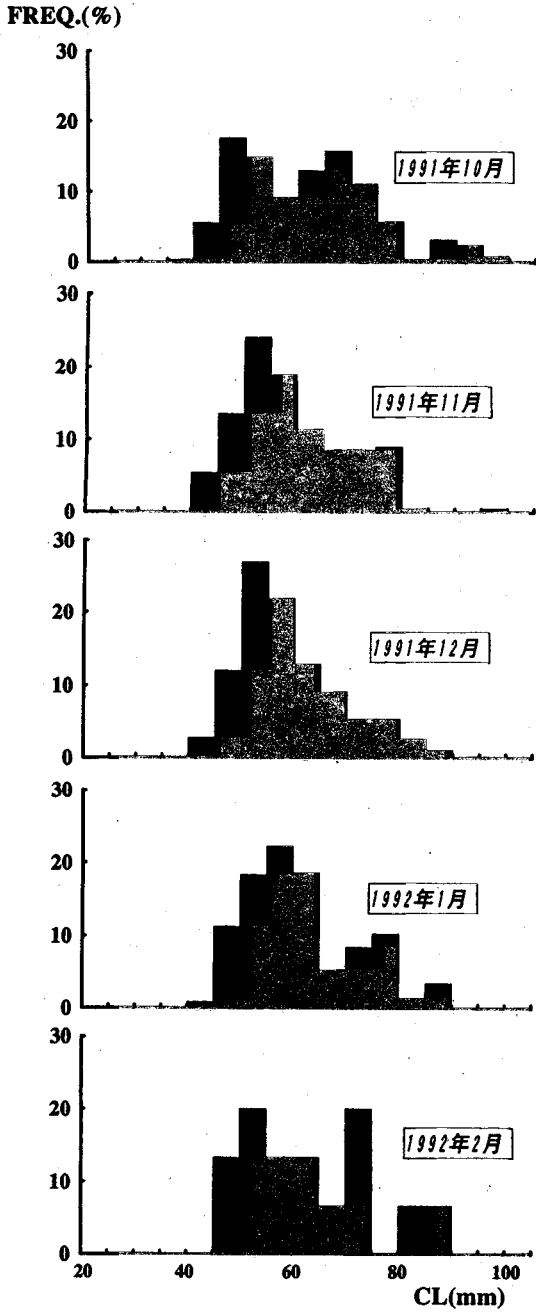


図1 阿部漁協における漁獲イセエビ(雄)の頭胸甲長組成

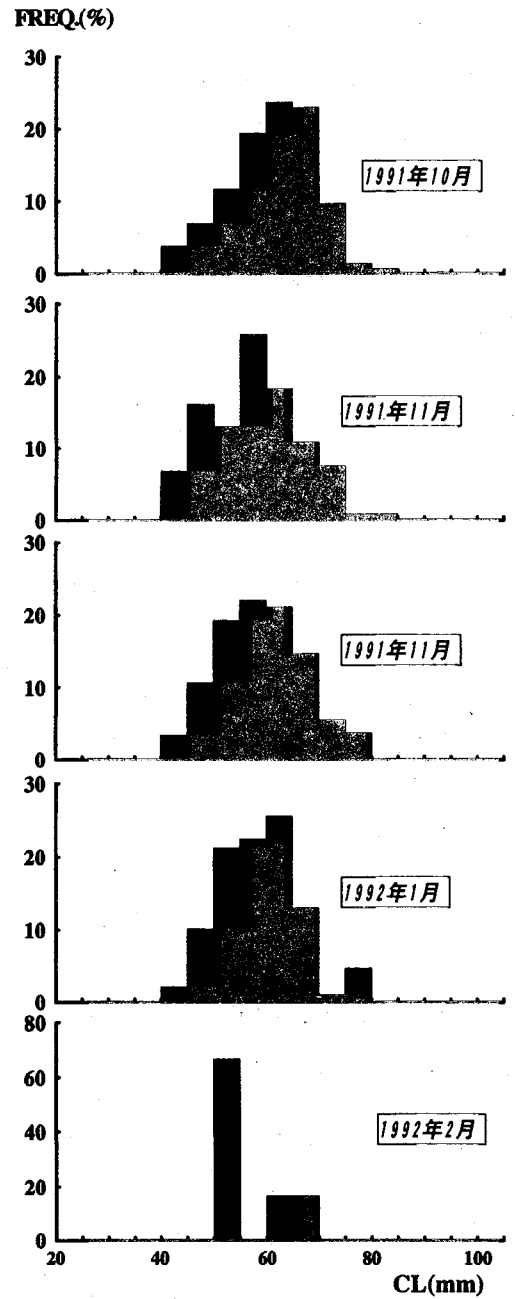


図2 阿部漁協における漁獲イセエビ(雌)の頭胸甲長組成

様の結果となった(石田, 1992)。その原因は依然不明のままであり, 今後の課題である。

表2 漁獲イセエビの性比<sup>1)</sup>

水揚げ漁協名	測定月/銘柄	エビ	小	放流
阿部	91年10月	0.40	0.19	ND
	91年11月	0.36	0.37	ND
	91年12月	0.38	0.30	ND
	92年1月	0.31	0.35	ND
	92年2月	0.29 <sup>2)</sup>		ND
日和佐町	91年11月	0.33	0.28	0.29
牟岐町	91年10月	0.45	0.35	0.33
	91年11月	0.35	0.29	0.34
	91年12月	0.35	0.05	ND
	92年1月	0.40	0.46	ND

ND: 未調査

1) 雌の個体数 / 全測定個体数

2) 銘柄, エビ・小の混合

### 参考文献

石田陽司(1992): エビ刺網で漁獲されたイセエビの体長について, 平成2年度徳島水試事報, 73-78。

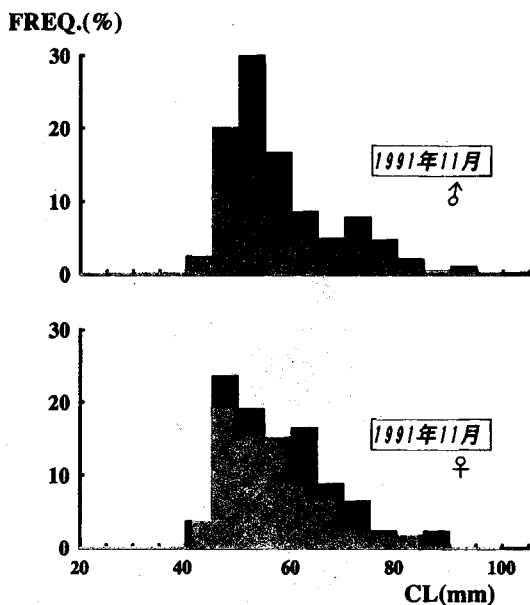


図3 日和佐町漁協における漁獲イセエビの頭胸甲長組成

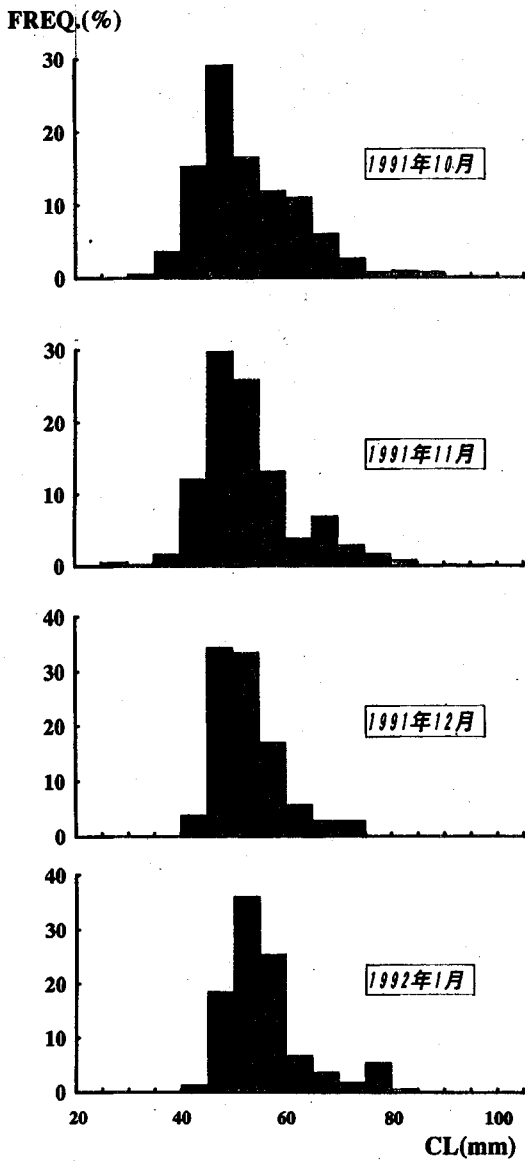


図4 牟岐町漁協における漁獲イセエビ(雄)の頭胸甲長組成

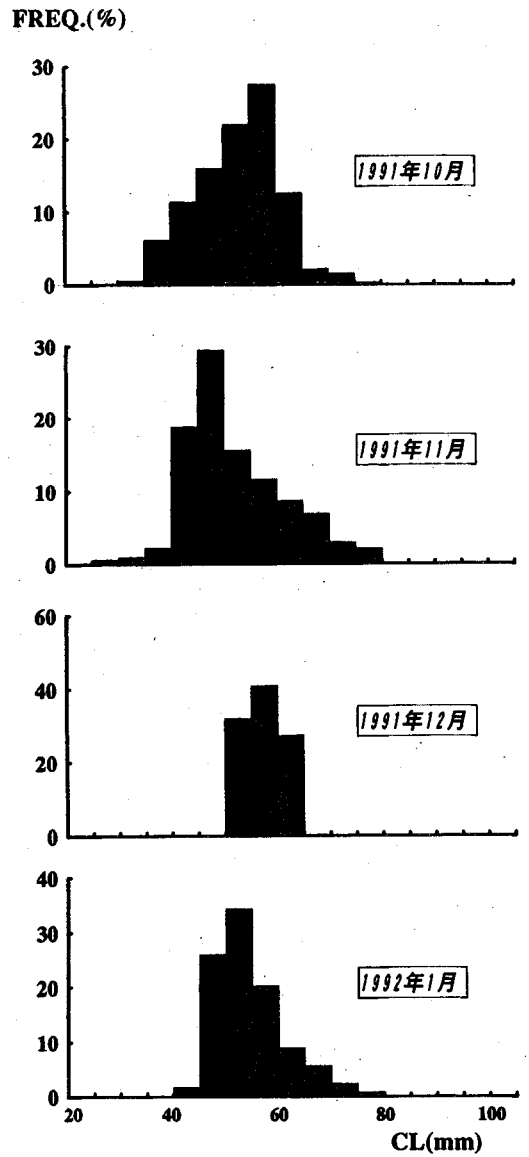


図5 牟岐町漁協における漁獲イセエビ(雌)の頭胸甲長組成